

---

**短すぎる・・・温かすぎる・・・悲しすぎる・・・恋**

ルリト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短すぎる・・・温かすぎる・・・悲しすぎる・・・恋

### 【コード】

N1740C

### 【作者名】

ルリト

### 【あらすじ】

転校してきた彼に一目ぼれーやばい・・・どきどき・・・でもどきどき・・・

まずかつたかな・・・

ごめんね・・・

アタシのセイ・・・だよね

人なんて好きになるもんじゃ・・・ないね・・・

ホントごめんね・・・

アタシも・・・。

「わたぎ棉木 ひとみ瞳美！」

「はい。」

かつたるい・・・実にかつたるい・・・なんで苗字が「わ」で始まるんだ・・・

いつも出席をとられるのは最後・・・それまでの時間が超・・・か  
つたるい・・・

「んじゃあちよつとビックリするかもしれないけれど転校生の方がきてます」

ホントにいきなりだった。先生のその言葉は・・・いきなりすぎるほど、ビックリする暇もないほど、、突然だった。

(え！？先生・・・突然すぎるし・・・なにいきなり・・・)

ワタシはものすごいドキドキしていた

「え?」「マジ!?」「ねえ聞いてた?」「男?女?」「やべえウチ告るは!」「チヨードドキドキすんだけど」

ザワザワ・・・ワタシもザワザワしたかった。でも転校生ごときで・・・私はそんな顔をした。

「ねえヒトミ!」

クールを装ってた私に・・・

「なに?」

話しかけてきたのは小学校から親友の『黒岸くろきし 羽南はな』だ

「なに?」

もう一度私は尋ねる・・・

「ねえ！！！！ヒトミの隣あいてんじゃん！この前までは『ブタ』が座ってたのに！こんど超イケメンかもよ？転校生とか意外と初めて話した子にキュン！とかするからさあ話しかけてみたら？」

「う・・・うん」

ワタシはそんなこと思ってもなかった。適当に受け流した

ちなみに「ブタ」

とは男子には人気があるが女子からは嫌われているブタ見たな男子だ。名前は教えなくてもいいのだが・・・これまた面白い名前です・・・  
・「豚沢<sup>ぶたざわ</sup> 太志<sup>ふとし</sup>」少し笑えてしまう・・・

「ちょっとしずかに！！！」

先生の声が大きくなった。

「これからはいる子がいりずらいでしょ！静かにしなさい！」

そして・・・「ガラガラガラ」

「みんな！『神<sup>しん</sup> 竜美<sup>たつみ</sup>クンです！じゃあ何か一言・・・」

「よろしくお願いします」

その瞬間だ！！！！

「キュン！！！！」

来た……来てしまった……人を好きになったときのこの素晴らしい胸のキュン！！っていう感じ

そう……私はタツミくんを好きになった……

「おはよう！！よろしくね！！」

たつみくんが席に着くタイミングをみながら声をかける

「あっおはよう」

そのときの笑顔は胸に刺さった。キザったことをいつようだが……  
どんな宝石よりも美しい笑顔だった……

でも……

その時見せた笑顔は……もう二度と見れないこと……など知らなかった

下校途中……

ワタシはニヤニヤしながら帰っていた。ちょうど5Mほど前の角でハナと別れた。

その時だ!!!!!!

こんなことってあるんだ……と思った……

「キヤ!!!!!!」

いきなりだ。私の腕をだれかがつかんだ……

そして車にいれられた。。。。

前は見えなかった。。。きっとアイマスクをつけられている。。。

先生に「変な人にあつたら大きな声を出しなさい」といわれていたが怖くて声なんてだせない。。。

そして。。。車が止まったような音がした。

「バタ！」

ドアが開き。。。。

ワタシは外へなげられる。。。ここはどこだろう。。。

その時。。。アイマスクがとられた。。。

「よう。。。。」

そこには高校生から25歳ぐらいまでの髪が茶色い4人の男が立っていた。。。

「中学生？オマエで遊んでいい？」

「え……………」

かすれた声しか出なかった…………

「答えはいいや！言わなくて！！！！俺らの自由だから！！！！」

その瞬間だ…………制服を脱がされた…………

「パシヤ」「パシヤ！」写真が撮られてる

必死になって抵抗する

「やめてください……………」

「やめてください……………」と

でも…………やめない…………

いじられる…………乱暴される…………

死にそうだった…………

その時だった！！！！！！！

「おい！！！！てめえらぶざけんな！！！！」

だれ？？？

もうその時は声はでてなかった・・・

ただ「バコ！バキ！」

という音しか聞こえなかった・・・そしてワタシは手と足を縛られていたロープをとってもらった・・・

・ その時わかった・・・私を助けてくれたのは「タツミ君」だった・・・

「あの……」

「ヒトミちゃんだけ？怖かったろ……」

そっぴい私を抱きしめた……そっぴい私の唇に……唇を重ねられた……

ワタシはもう歩けなかった……

よたよた……としか……

そしてわたし達は公園のベンチで休むことにした……

長い沈黙の後で……

「ねぇ？どっつしてどっつしてワタシを助けたの？」

「あ？ああ・・・あいつらオレのアニキのダチで・・・あいつらいままで刑務所にはいつてたんだ。。人を殺して・・・でもニユースで・・・あいつらが逃げたっていうから・・・探してたらあいつらの車があつて・・・」

「お兄さんもいるの？あのなかに」

すると彼は首を振った

「アニキは自殺した・・・薬で自殺した・・・」

ワタシはまた沈黙した・・・

「ねえ！」

ワタシは言いたかった・・・好きだって・・・でも・・・

「ねえ！」

「ん？どうした？」

その言葉で……

「いいや……なんでもない」

彼の言葉を聞くと言えなくなる……好きだとは……

そしてワタシも普通に歩けるようになり……横断歩道を彼とわた  
った……

でも次の瞬間!!!!!!

信号無視のくるまがきた……

彼はワタシを突き飛ばした……  
……ワタシだけ守ってくれた……  
……

そして彼は・・・死んだ・・・

たった一日の恋だった・・・

もう恋はできないかもしれない・・・

短い短い恋だった・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1740c/>

---

短すぎる・・・温かすぎる・・・悲しすぎる・・・恋

2010年12月30日14時34分発行